

## その5

### 第4章：世界と肉

前章までで、私たちに敵対する勢力についての議論は終わったと思っているかもしれませんが。

サタンとその大規模な軍隊が私たちに敵対していることを考えると、気が遠くなります。

私たちが一番聞きたくないのは、サタンとその悪魔だけが私たちの敵ではないということですが、実際には、私たちにはさらに2つの敵がいるのです。

「靈的戦い」という言葉を聞くと、多くの人は、天使や人間と悪魔の間の宇宙的な戦いを想像します。クリスチャンの敵を聞かれたら、ほとんどの人は迷わず「悪魔とその悪霊」と答えます。

この答えは正しいのですが、完全ではありません。私たちの敵は1つではなく、3つあるのです。

この3つの敵について説明できなければ、靈的戦いについての研究は不十分なものになってしまいます。

前章では、悪魔の力と制限、能力と無力を理解するのに時間をかけました。

ここでは、私たちが戦う残りの2つの敵、「世」と「肉」に注目してみましょう。

#### 敵を無視することの危険性

私が子どもたちと一緒に楽しんでいることの一つに、レスリングがあります。玄関の床の上で体をくねらせながら、私は子供たちをバカにしたり、くすぐったり、全力で私の手から逃れられないようにします。

子供たちは悲鳴を上げたり笑ったりして、懸命に反撃しようとします。子供たちが小さかった頃は、4人を同時に相手にしても問題なかったのですが、今はそうはいきません。

今はもうそんなことはありません。

たまに、1人か2人の子供が横に立って、攻撃する絶好の機会を待っていることに気がつきました。彼らは賢明にも手の届かないところにいて、距離を保ち、辛抱強く待っていました。

私はすぐに、攻撃を誘うためには、待っている子供に背中を向ければよいことに気がつきました。

私が他の子供に注意を向けることで、待ち伏せしている人たちは、弱点や盲点を感じ取り、チャンスを得ることができます。

そうすると、待っていた子供たちは弱点や死角を感じ取り、チャンスだと判断して、すぐに攻撃を仕掛けてきます。

これと同じシナリオが、靈的戦いの場でも展開されます。靈的な戦いは、一人の敵と戦うものではありません。靈的な戦いは、一人の敵に対して行う戦いではなく、クリスチャンに対して協調して働く3つの別々の敵に対して行う戦いなのです。

もし私たちが3つの敵のうちの1つだけに焦点を当てているならば、他の2つの前線での戦いに負けていることにすぐに気づくでしょう。

悪魔を倒すことばかりに気を取られて、世や肉との戦いがおろそかになっていることが多いのです。

その結果、多くのクリスチャンは、世と肉との戦いで大きな影響を受けています。

今日の教会では、悪魔に気を取られた結果が見られます。

靈的戦いに関する資料を探してみると、材料には事欠かないでしょう。

解放のミニストリー、研究資料、本、テープなどがあふれています。教会の歴史の中で、靈的な力と戦うために私たちを備えるとされる資料がこれほど多く出回ったことはありません。

その一方で、教会が世と肉との戦いに敗れていることは明らかです。

世俗性は教会に浸透しているだけでなく、ほとんどの分野で完全に支配されています。

一時的なものへの愛、現実世界へ適用させることに熱狂、そして現代文化の受け入れが、教会に障害を与えています。

牧師やミニストリーのリーダーたちは、学界や政界で受け入れられることを切望しています。

地元の「求道者のための教会」の日曜の朝は、神の言葉の饗宴というよりも、ポップカルチャーのビュッフェのように感じられます。

世俗的な考え方と人間中心の神学が、ほとんどすべての教会成長の方法論の原動力となっています。

その結果、これらの世俗的な教会は、未信者の欲求に迎合し、彼らの世俗的な考えに直面しないようなメッセージを作ることが伝道であると考えています。

クリスチャンは肉との戦いでどのようにしていますか？

私たちはその敵に勝っているのでしょうか？ほとんどありません。

統計によると、公言しているクリスチャンは、異教徒と同じように、嘘をつく、盗む、離婚する、ポルノを見る、ゴシップを言う、税金をごまかす、などの傾向があります。

不一致、プライド、自己中心性、貪欲さ、不満などは、不信心者だけに見られる特徴ではありません。

それらは現代の教会にしっかりと根付いています。これはちょっと不自然なことではないでしょうか。

それは、様々な要因が考えられますが、多くのクリスチャンが、サタンとその悪霊との戦いを求める一方で、他の2つの敵に目を背けていることは否定できません。

その結果、クリスチャンの生活の中で、世と肉が次々と勝利を収めているのです。

私たちは全力で戦い、悪魔の策略に立ち向かっているかもしれませんが、もし私たちが神を信じない人たちを採用しているのであれば、そのようなことはありません。

私たちは、悪魔の策略に対して全力で戦い、力強く立ち向かっているかもしれません。

絶えず肉の中で生きているのに、世界を特徴づけるような考え方をして、何の意味があるのでしょうか？

この3つの敵を同時に相手にするバランスの取れた戦いだけが、私たちの勝利を約束します。

では、残りの2つの敵について知っておきましょう。

世界

「世界」というのは、私も、聖書も世界にいる個々の人々のことを言っているわけではありません。

私たちは、地球上のすべての人という意味で「世界」を語っているわけではありません。

「世界」とは、神が入り込む余地のない、この世の考え方、生き方、視点を意味しています。

それは、「肉の欲」、「目の欲」、「自慢げな人生の誇り」（1ヨハネ2：15～17）からなる、神を恐れぬ考え方です。

皆さんは、「世俗的なクリスチャン」という言葉を聞いたことがあると思います。

通常、このようなレッテルは、タバコを吸う、映画を見に行く、特定のスタイルの音楽を聴く、トランプをする、ワインを飲む、日曜日にサッカーを見るなどの特定の活動と関連しています。

聖書でいう「世俗性」とは、特定の活動というよりも、特定の考え方と関係しています。

性的不道徳、酩酊、酒宴などは肉の罪であり、それ自体は世俗ではありません。

これらのことは、世俗的な考え方や世界のシステムによって奨励されたり正当化されたりするかもし

れませんが、それらは肉の行いです。

世俗性とは、特定の罪に溺れるように肉をかきたてる考え方、人生の全体的な哲学のことです。

それは、神とその御言葉が入り込む余地のない、人生に対する体系的なアプローチであり、考え方であり、世界観です。

これは、人間主義的、人間中心的、自己充足的な考え方です。

ルイス・スペリー・チェイファーは、世界システムについて次のように述べています。「宇宙（「世界」の意）とは、サタンが推進した広大な秩序やシステムであり、サタンの理想、目的、方法に私たちが従わせるものである。

それは、現在、神から離れて機能している文明であり、その推進者の誰もが、神が共有することを本当に期待しておらず、自分たちのプロジェクトに関して神に何の配慮もしていない文明である。

このシステムには、神を恐れない政府、紛争、軍備、嫉妬、そして教育、文化、道徳の宗教、プライドが含まれています。

それは、人間が生きている領域です。

それは彼が見るものであり、彼が使うものである。数え切れないほど多くの人々にとって、この地球上で生きている限り、それが彼らの知るすべてである。

それは、正しくは「悪魔のシステム」と呼ばれていますが、この言葉は多くの場合、意味深長な「コスモス」という言葉を正当に解釈したものです。

それは文字通り、悪魔のような宇宙です。

私たちが世間のように考えるとき、それはまさにサタンが私たちに望んでいるように考えているのです。

私たちは、「世や世にあるものを愛してはならない」と言われています。世を愛する者があれば、その人には父の愛がありません。

世にあるすべてのもの、すなわち、肉の欲、目の欲、高慢な人生の誇りは、父からのものではなく、世からのものだからです。

世は過ぎ去り、その欲望も消え去りますが、神の御心を行う者は永遠に生きるのです（1ヨハネ2：15～17）。

ヤコブ1：27によれば、「私たちの神と父の目にかなう純粹で汚れのない宗教とは、孤児ややもめの苦難を訪れ、世に染まらないようにすることです」。

“姦淫する者よ、世との友情が神への敵意であることを知らないのか。ですから、世の友になろうと

する者は、自分自身を神の敵としているのです」(ヤコブ4:4)。

この世の知恵は、「上から降ってくるものではなく、地上の、自然の、悪魔のようなものです」(ヤコブ3:15)。

クリスチャンは、この世のものではないので、この世から嫌われています(1 John 3:1, 13)。

私たちはこの世を愛するのではなく、この世に打ち勝たなければなりません(1ヨハネ4:4、5:4)。なぜなら、この世のシステム全体が「悪しき者の力にある」からです(1ヨハネ5:19)。

世に勝つ

キリスト教界でよく聞かれるスローガンは、「信者は世にいて、世にいない」というものです。

私たちはこの世から選ばれたので、信者はこの世に属していません。

もしあなたがこの世のものであれば、この世はあなたを愛するでしょう。

しかし、あなたがたが世のものではなく、わたしが世からあなたがたを選んだので、世があなたがたを憎んでいるのです」(ヨハネ15:19)。

神から生まれた私たちは、闇の領域から解放され、神の愛する御子の王国に移されたのですから、悪者は私たちに触れることはできません(1ヨハネ5:18~19)。

では、私たちとこの世との関係はどうでしょうか。

私たちはこの世のものではありませんが(ヨハネ17:14、16)、この世に生きています(ヨハネ17:15)。私たちは、この世から離れていながら、この世に残されて伝道しているのです。新約聖書の多くの箇所では、私たちのライフスタイルや行動がこの世から離れていることが語られています。

「この世に合わせるのではなく、心の一新によって変えられ、神のみこころが何であるか、すなわち、良いこと、受け入れられること、完全であることを証明できるようになりなさい」(ローマ12:2)。

神の恵みは、私たちに、「不信心と世俗的な欲望を捨てて、祝福された希望と、私たちの偉大な神であり救い主であるキリスト・イエスの栄光の現れを待ち望みながら、今の時代に分別をもって、正しく、神らしく生きなさい」と教えています(テトス2:12-13)。

私たちは、「自分を世に汚されないようにし」(ヤコブ1:27)、世との交友を望んだり求めたりしてはいけません(ヤコブ4:4)。

「私たちは、「欲望によって世にある腐敗から逃れ」(2ペテロ1:4)、「主であり救い主であるイエス・キリストを知ることによって、「世の汚れから逃れ」(2ペテロ2:20)しました。」(2ペテロ2:20)とあります。

あなた方が「自分の光を人々の前で輝かせ、人々があなた方の良い行いを見て、天におられるあなた

方の父をあがめるようにする」(マタイ5:16)とき、「あなた方は、曲がった、ひねくれた世代の中で、自分たちが罪のない、非の打ちどころのない神の子であることを証明し、その中で、あなた方は命の言葉をしっかりと守って、世の光として現れる」(ピリピ2:15-16)のです。

私たちが世から離れるのは、人間の思考、文化、行動の隅々まで浸透している神を恐れないシステムとは異なる生き方、考え方をするときです。

イエス様は、この世のシステムに立ち向かいながら、この世に生きる方法のモデルとなってくださいました。

キリストは、ご自分の人生において神の道徳的完全性を示すことによって、この世の行いの罪深さをあかしされました。

同様に、信仰者は、神の聖なる性質を自分の人生に輝かせることによって、この世の行いの罪深さを明らかにし、それらが神の聖なる性質に反していることを示すのです。

キリストもまた、神が誰であるか、そして神が人々に何を要求しているかを示すことによって、真理の証人となりましたが、信仰者もまた、主イエスの生涯、死、そして復活について、真理の証人となるのです。

この2つの方法で、信者は世の証人としての責任を果たしているのです。

私たちは、神をも恐れぬ哲学、思索、高尚で自己中心的な考えに立ち向かうことによって、世界のシステムに戦いを挑みます。

私たちは真理を宣べ伝え、不信心な人のあらゆる考えをキリストの従順に捕らえるのです(2コリント10:3-5)。

クリスチャンが個人的に、あるいは教会が全体的に、結婚、ミニストリー、真理、そして人生や生活のあらゆる面でこの世の考え方を採用し始める度合いは、霊的な戦いで敗北する度合いです。

サタンは、あなたを圧迫したり、支配したり、個人的に攻撃したりする必要はありません。

サタンは、あなたがこの世と同じように考え、行動するように仕向けるだけで、あなたはサタンの意志を実行していることになるのです。

怖いですね。

## THE FLESH

2010年6月29日のCBSの見出しは、「FBI：米国で10人のロシア人スパイを逮捕」でした。この10人のロシア人スパイは、ニューヨーク、ワシントン、ボストンで無実の市民を装い、米国の政策決定機関に潜入して、米国の兵器、外交戦略、政治情勢に関する情報を収集しようとしていました。

ニュース記事によると、「これらのディープ・カバー・エージェントは、FBIにとって最も捕まえるのが難しいスパイであり、情報機関の世界では『不法入国者』と呼ばれている。

これは、彼らがロシア大使館や軍のミッションの中で政府の仕事をしているのではなく、外国政府とのつながりが見えない民間の仕事をしているからだ」とのことです。

陣営内の反逆者である「裏切り者」ほど恐れられている脅威はありません。彼らは、政府を転覆させ、政府の利益を破壊するために秘密裏に活動します。

これらは外部からの脅威よりもはるかに効果的な場合があります。

国には裏切り者、スパイ、反逆者がいるように、クリスチャンにも裏切り者、つまり肉があるので

私たちが直面している他の2つの敵、サタンと世間は、どちらも外敵です。

どちらの敵も、人を神に従わせない力はありません。

クリスチャンの生活の中で、サタンと世のシステムが活動する機会を与えるもの、それが「肉」なのです。

それはどこから来たのか？

「肉」とは、新約聖書が最も頻繁に使用している言葉で、アダムの墮落した子供たち全員の中にある支配原理である罪の性質を表しています。

アダムが園で罪を犯した瞬間に、彼は罪の性質を手に入れました。

それは、未信者を完全に支配する原理、影響力、罪の性質です。

それは、人生のあらゆる領域において、神よりも自分の意志と権威を主張したいという欲求です。

これは、受胎の時点で、アダムの子孫すべてに受け継がれます。ローマ人への手紙8章は、罪深い性質である「肉」の性質、範囲、影響力についての重要な箇所です。

アダムの子孫であるすべての人は、肉の中にいて、肉に支配されています。

したがって、彼らは「神に敵対し」、「神の律法に従わない」ので、「神を喜ばせることができない」のです（ローマ8：1～17）。

新生を除けば、未信者は新しい性質を持たず、神に喜ばれることをする霊的能力もありません。

彼らは罪の奴隷なのです（ヨハネ8：34）。

肉は、さまざまな罪や罪深い行為を生み出します（ガラテヤ5：19－21）。

肉はまた、表面的には善行や義行のように見えるものも生み出します。

タルソのサウロほど外見的に正しい人はいませんでしたが（ピリピ3：2－6）、彼はキリストから離れて自分の義を確立しようとしていたので、彼の正しい活動はすべて罪深いものでした（ピリピ3：7－11）。

神の好意を得ようとして宗教的な活動をするように仕向けるものは何でしょうか。

肉です。

肉はその誇りの中で、自分自身と自分の努力を神の前で功労者として確立しようとしています。

私たちの主な敵

新約聖書の明確な教えは、悪魔ではなく、肉がクリスチャンが直面する主要で最も影響力のある敵であるということです。

世界は、私たちの最も強力な影響力のある敵ではありません。

悪魔は、私たちの最も強力な影響力のある敵ではありません。

肉体が私たちの最も強力な影響力のある敵です！

アイスとディーンが正確に指摘しているように、新約聖書の21通の手紙は、この時代、つまり教会時代のクリスチャンが直面している重要な問題を解決するために書かれました。

この時代のクリスチャンにとって重要な問題であれば、これらの手紙の中で包括的に取り扱われ、問題でなければおそらく無視されると考えるのが妥当です。

いくつかの分野でのこの手紙の沈黙は、多くのことを物語っています。

例えば、悪魔（または悪霊）については10回しか言及されていませんが、そのほとんどは悪魔についてのある事実に関連しているだけです。

... 一方、同じ手紙の中で、クリスチャンの主な敵である肉について50回以上言及しています（「肉」はこの罪の性質について言及している一つの方法に過ぎません）。

新約聖書の視点では、争いの主な領域が肉の領域であることは明らかです。

私の聖書大学の友人の言葉を借りると、「サタンは私に罪を犯すように誘惑したり、罪を犯させたりする必要はありません。私の肉は私を破滅させる能力が十分にあります。」

しかし、今日の霊的戦いの教えの大部分は、すでに敗れた敵であるサタンに打ち勝つことを目的としています。

## 肉に対する勝利

かつて私たちは罪の奴隷であり、肉の束縛を受けていましたが、救いによってその罪の性質の力から解放されました。

しかし、神に感謝します。あなたがたは、罪の奴隷であったにもかかわらず、自分が献身していた教えに心から従順になり、罪から解放されて義の奴隷となったのです。

“私たちは、キリストの死と埋葬と復活においてキリストと同一視されたので、私たちの「古い人」は十字架にかけられ、死んで消えてしまいました。

私たちはもはや、かつてアダムの中にいた人間ではありません。私たちは今、キリストにある新しい生き物です（2コリント5：17）。[8]

私たちの古い人間（アダムにあった私たちのアイデンティティ）は死んでなくなったが、罪の性質は続いている。

私たちはまだ肉と戦わなければなりません。

これが、パウロがローマ人への手紙7章で述べている、したくないことをしたり、したいことをしなかつたりする葛藤につながっているのです。

私はもはや「アダムの中の人」ではなく、罪の力から解放されていますが、私の中にはまだ罪深い性質、つまり御霊と戦う肉が宿っています（ガラテヤ5：16～24）。

私たちは、この罪の性質である「肉」にどのように対処すればよいのでしょうか。

ローマ人への手紙6章がその鍵です。

まず、古い自分がキリストとともに十字架につけられ、私たちはもはや罪の奴隷ではないことを知ることです（1～10節）。

第二に、私たちは自分自身が罪から解放され、罪に対して死んでいると考え（11節）、罪が私たちの体を支配し、その欲望に従うことのないようにしなければなりません（12節）。

私たちは、罪がもはや私たちを支配していないことを信じ、その事実を踏まえて生きていかなければなりません。

私たちは、もはや罪の奴隷ではないことを、それが真実であると信じて、信仰によって受け入れます。

第三に、私たちは従順を選び、神とその御言葉に従います。

このようにして、私たちは罪からの解放について聖書に書かれていることを信じて、信仰によって歩んでいきます。

もし私たちが自分を義の奴隷とし、義を行うことを選ぶなら、義に従うことで私たちは義の奴隷となります。

もし私たちが自分の体を罪にゆだねることを選べば、私たちは罪の奴隷になります。

聖化の不変の法則は、私たちが従う相手の奴隷になるということです（ローマ 6:16）。ローマ 6:19 は、「あなたがたが、自分の体を不浄と無法の奴隷として差し出した結果、さらなる無法状態に陥ったように、今度は自分の体を義の奴隷として差し出した結果、聖化がもたらされるのです」と言っています。

私たちは、一步一步、一日一日、決断しながら、キリストと共に歩んでいます。

私たちの罪の性質は、私たちがそれに従うことを選んだ場合にのみ、私たちを支配する力を持ちます。

私たちは、生涯、毎日、習慣的に肉との戦いに従事しています。

御霊は肉と戦い、肉は御霊と戦います（ガラテヤ 5:17）。

使徒ペテロが注意しているように、肉の欲は私たちの魂と戦います（1ペテロ 2:11）。

クリスチャンの人生は、この日々の戦いから解放された神秘的な面で生きるものではありません。私たちは、死の体である罪深い肉に縛られて生きており、死や主の再臨によってもたらされる解放を待ち望んでいます（ローマ 7:24~25、8:18~25）。

ピューリタンは「罪の死滅」という言葉を使っていましたが、残念ながら使われなくなってしまいました。

私たちは罪を殺します。それは私たちの敵です。私たちは戦いを行い、戦争をします。私たちは、キリストの恵みと力によって、誘惑に抵抗し、従順を選び、内なる敵と戦いながら、肉の行いを死滅させます（ローマ人への手紙 8:13）。

### 敵の団結

私たちには、世、肉、悪魔という3つの敵がいます。

この3つの敵は、互いに協力して信者に対抗します。

この3つの敵がどのように連携しているかを知るために、アイスとディーンが著書「悪魔に蹂躪されて」の中で提示した次のような例を考えてみましょう。

すべての未信者はサタンの束縛を受けており、彼らは知らず知らずのうちに神に敵対する者の味方になっています。

彼は彼らを世界システムの曲に合わせて調和して踊らせます。

このシステムは、ラジオ局の機能と似ています。サタンは、ラジオ局のアジェンダを選択するプログラム・ディレクターです。

悪魔と墮落した人類は、アジェンダ（偽りの教義）を広め、強化するための番組を制作します。

そして、放送局はそのメッセージを放送で伝えます。しかし、適切な周波数に調整された受信機がなければ、その放送局を受信することはできません。

墮落した人類は、「WORLD」というラジオ局に合わせて、音量を最大にしています。

受信機は肉で、サタンの周波数に引きつけられています。「世界」「肉」「悪魔」の3つが調和しています。

不信者の性質は、世界システムの悪の性質に共感しているので、両者は引きつけられます。

この2つの大きな違いは、世界システムがサタンの企業的な表現であるのに対し、肉は個人レベルで同じ特徴を体現していることです。

個人がイエス・キリストを信じるようになると、この連携は崩れ、キリスト教徒と世間との間で全面的な戦争が始まります。